

「やまなしの教育振興プラン」目標となる指標の達成状況

担当課	指標の概要	H19年度の 現況値	H25年度の 目標値	H25年度の 実績値	達成率 %	今後の取組
確かな学力の育成						
6 義務教育課	【国語についての理解の状況】 ・「全国学力・学習状況調査」における「国語の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 81.8 %	小 90 %	小 83.1 %	15.9	「一校一実践」「一人一実践」が、県の授業改善のポイントをもとに、児童生徒の実態に応じて焦点化し行われているかを、「一校一実践」「一人一実践」の記録等を県教育委員会へ提出させ、チェックし指導することで全県的な取組を図っていく。 各学校において、学校長のリーダーシップのもと、家庭学習の課題の与え方等について、共通理解を図れるよう、管理職研修や指導主事の学校訪問を通じて指導していく。
7		中 72.1 %	中 80 %	中 74.4 %	29.1	
8 義務教育課	【算数（数学）についての理解の状況】 ・「全国学力・学習状況調査」における「算数（数学）の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 79.2 %	小 90 %	小 81.9 %	25.0	「一校一実践」「一人一実践」が、県の授業改善のポイントをもとに、児童生徒の実態に応じて焦点化し行われているかを、「一校一実践」「一人一実践」の記録等を県教育委員会へ提出させ、チェックし指導することで全県的な取組を図っていく。 各学校において、学校長のリーダーシップのもと、家庭学習の課題の与え方等について、共通理解を図れるよう、管理職研修や指導主事の学校訪問を通じて指導していく。
9		中 62.1 %	中 70 %	中 71 %	112.7	
10 義務教育課	【評価規準の整備状況】 ・学習指導要領に示された目標に沿った指導と評価を実践するために、各教科毎に学力を観点別にとらえた評価規準を整備している学校の割合	小 91.2 %	100 %	小 100 %	100.0	教育課程研究協議会や指導主事の学校訪問において、引き続き学習指導要領に示された目標に沿ったよりよい学習指導と評価が行われるよう、指導に取り組んでいく。 評価規準については一通りの整備が完了したので、今後は、より精度の高い評価規準になるよう、指導主事の教科訪問時などを利用して、新たな情報や他校での様子などの情報提供をし、ブラッシュアップを支援していく。 授業改善に結びつけられるような、全国の情報や県内高校の情報を提供するとともに、「指導と評価の一体化」の推進に向けて支援していく。
11		中 89.6 %		中 100 %	100.0	
12 高校教育課		高 92.5 %		高 100 %	100.0	
13 義務教育課	【家庭学習の取組状況】 ・「全国学力・学習状況調査」における「学校の授業時間以外に普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか」の設問に「全くしていない」と答えた児童生徒の割合	小 3.6 %	小 2 %	小 2.8 %	50.0	各学校において、学校長のリーダーシップのもと、家庭学習の課題の与え方等について、共通理解を図れるよう、管理職研修や指導主事の学校訪問を通じて指導していく。 参加した保護者のアンケートをもとに、開催時期や時刻、内容を検討し、より多くの保護者に参加してもらえるよう工夫するとともに、家庭学習のリーフレットをホームページ上に掲載して、各学校での活用を促していく。
14		中 9.3 %	中 5 %	中 6.8 %	58.1	
15 高校教育課	【校種間連携の状況】 ・教員や生徒により小中学生への授業等を実施している高校の割合	高 62.1 %	高 80 %	高 76.7 %	81.6	小中学生を迎える授業や学校のPRを兼ねた授業など、小中学校側の負担にならない方法での連携ができないか検討を進めていく。 各校が次年度の年間計画を作成する前に教務主任会等を開催し、次年度計画に小中学校との連携事業を盛り込むよう要請していく。また小中学校に対しても小中学校側が年間計画を作成する前に協力の要請を行うよう働きかけていく。 併せて、各小中学校側が異校種間参観できる日にちを事前に集計及び周知することにより、教員が小中学校側と交流しやすい環境づくりを進めていく。